

Hello! FUJISEI

No. 196

高齢社会の人口動態

死亡者数の約6割が80歳以上の高齢者

平成24年の死亡数は125万6359人で前年より3293人増加し、死亡率(人口千対)は、10.0と上昇しました。

死亡数と死亡率の年次推移をみると、明治から大正にかけて、死亡数は90万~120万人、死亡率は20台で推移。昭和に入って初めて死亡率が20を割り、昭和16年に死亡数115万人、死亡率16.0まで低下しました。

第2次世界大戦後の22年に死亡数は114万人、死亡率は14.6でしたが、医学や医療の進歩及び公衆衛生の向上などにより死亡の状況は急激に改善され、41年には死亡数が最も少ない67万人、54年には死亡率が最も低い6.0となりました。

その後、人口の高齢化を反映して緩やかな増加傾向に転じ、平成15年に死亡数は100万人を超え、死亡率

も上昇傾向にあります。

また、年齢階層で見ると、明治から昭和初期にかけて多かった14歳以下の死亡数は、戦後、急激に減少しています。近年では人口の高齢化を反映して65歳以上の死亡数が増加し、特に80歳以上の死亡数の増加は顕著で、全死亡数に占める割合は上昇しており、平成24年では58.3%となっています。

死亡数及び死亡率の年次推移—明治32~平成24年—

厚生労働省「平成26年 我が国の人口動態」より

